



## 大井川和彦 (おおいがわ・かずひこ)

茨城県知事

プロフィール

1964年、茨城県上浦市生まれ。1988年3月、東大法学部卒業、同年4月、当時の通商産業省に入省。1996年、ワシントン大学ロースクール卒業。経済産業省を退職後、2003年にマイクロソフトアジアに入社、執行役員を務める。2010年、シスコシステムズの専務執行役員パブリックセクター事業担当に就任。2016年、ニコニコ動画の運営会社であるドワンゴの取締役役に就任。2017年、茨城県知事選挙で初当選、現在1期目を務める。

# 既成概念を打ち破る!

## 茨城再起動への挑戦

### 大井川和彦 茨城県知事

〈聞き手〉 海老根靖典 大樹リサーチ&コンサルティング代表取締役社長  
前藤沢市長

前職の知事が6期務めたあと、激しい選挙戦を経て、2017年9月、茨城県知事に就任した大井川和彦氏。経済産業省、外資系IT企業、そしてドワンゴと、産業界の最先端を走ってきた大井川氏が、ふるさと茨城のために立ち上がった。農業産出額は全国2位を誇り、人口、産業とも日本で10位前後と比較的安定してきた茨城県を、革新的な起業家精神で、いま大きく変えようとしている。

### 「困っていない」県に 新たな風を送り込む

**大樹** 9月26日にご就任されたばかりの大井川茨城県知事ですが、まずは1カ月半経ったご印象をお聞かせください。

**大井川知事** 選挙中に感じたのは、茨城県には現状に満足している人が多いということです。住みやすく、「べつに困っていない」という言い方をされる方が大変多くいらっしゃいました。「困っていないから、現状で問題はない」。私は当初、その反応に大変戸惑いました。

**大樹** 実際、茨城県は住みやすい県なのではないでしょうか。

**大井川知事** 現状はそうだと言えるでしょう。人口は約300万人弱と、全国でも11番目の規模があります。1人当たりGDPも、県内生産額も、全国で見ると10位前後ですから、比較的豊かな県です。

**大樹** 非常に安定的に発展してきた県だとも言えますが、「困っていないから現状で満足だ」という、やや保守的な県民性は変えていきたいですね。

## 改めて気づく茨城県の良さ 付加価値をつけて売り出す

30年茨城県を離れ、知事として再び戻ってきた大井川和彦知事。土浦市に生まれ、日立市で育ち、比較的市街地で過ごした当時は分からなかった茨城県の良さに、今回の知事選挙で県を回ってみて、改めて気づいたと語る。「本当に住みやすく、特に食べ物のおいしさは、東京から戻ってきてみると本当に実感しました」。

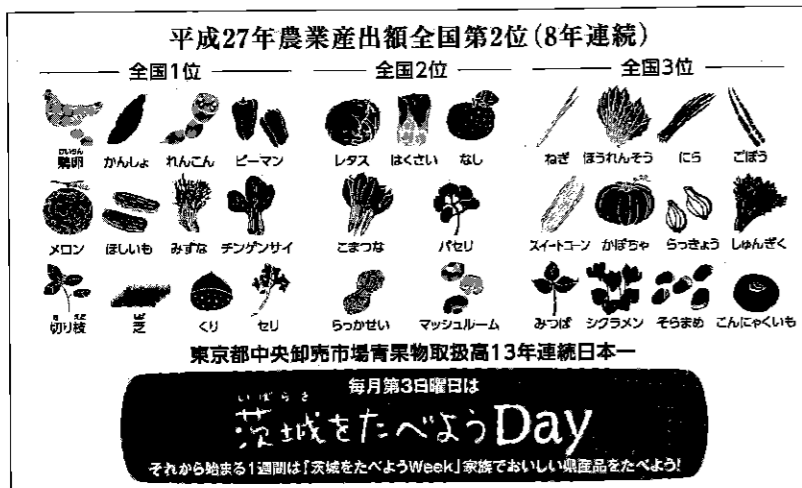
実際、茨城県はメロンなどの果物や野菜を中心に、全国でも高い生産量を誇る。県の面積に占める農地の割合は27.5%と全国1位（出典：

農林水産省「平成29年耕地面積（7月15日現在）」、農業従事者の割合も高い。米の生産量も全国6位につけており（出典：農林水産省「平成28年産水陸稲の時期別作柄及び収穫量」）、「茨城県のお米がこんなにおいしいとは知りませんでした」と大井川知事は語る。

大井川知事の目指す「新しい茨城」づくりの1つに、「新茨城マルシェ計画」がある。「茨城県の食材を使用した高級レストランの海外展開などにより茨城の農作物の新しいブランド化を推

進し、県内外・海外市場を開拓」しようとするものだ。

高度研究機関が集まる筑波研究学園都市などを有する一方で、豊かな自然を持つ茨城県。その魅力をいかに発信していけるか、大井川知事の手腕にかかっている。



平成27年版：茨城県の産出額が全国1～3位の農産物（茨城県HPより）

**大樹** 大井川知事のご経歴を拝見すると、さまざまなご経験をされていますね。

**大井川知事** 15年間、通商産業省、そしてその後の経済産業省で役人を務め、その間ワシントン大学のロースクールに行き、そのあと15年は、マイクロソフト、シスコシステムズといった外資系IT企業に勤め、直近までは「ニコニコ動画」のドワンゴにいました。

**大樹** つまり30年生まれ育った茨城県を離れ、東京や海外を見てこられたわけですね。よく、変革のために必要な人材として「若者・バカ者・よそ者」と言いますが、そうした意味では、大井川知事はよそ者の視点で茨城を見ることができるのではないのでしょうか。

**大井川知事** 私は「日本一バカな知事を目指しますから」と、まさにそのフレーズを使っ

て選挙活動をしていたんです（笑）。

これまでは当たり前だと疑わなかったことに疑問の目を向け、変革に向けて挑戦する意欲を県政に持ち込めると思っていますので、そうした意味では新たな付加価値を出しやすいのではないかと考えています。

**大樹** IT業界という、改革や挑戦の精神が根付いた業界のご出身ですから、そのご経験

**大井川知事** おっしゃるとおりです。ですが私は、「今困っているか困っていないかわけなく、このまま行くと将来困るでしょう」と、選挙中から訴えてきました。

**大樹** 大井川知事が生まれ育った頃の茨城県はいかがでしたか？

**大井川知事** 私が茨城県にいたのは高校生までですので、もう30年ほど前になります。その頃の茨城県は、大変上り調子で勢いがありました。筑波研究学園都市や鹿島臨海工業地帯のコンビナートなど、いくつもの大規模開発がなされ、日立製作所がどんどん売上を伸ばし、県内各地に人が流入する時代でした。

そうした時代を茨城県で過ごし、そして東京に移り住み、知事として戻って来たら、それがすべて変わってしまったという。2011年の東日本大震災以降は、毎年、県全体で1万人程度人口が減少しています。特に県北の山間部や日立市からはかなり人口が流出していますので、県北を中心に将来に対する不安感が高まっています。

**大樹** しかし、つくば市までは「つくばエクスプレス」も通り、東京都心まで非常に近く、県南部は栄えている印象もあります。



思い切ったことにチャレンジする  
エネルギーが必要です。

**大井川知事** つくばエクスプレスの沿線は、かろうじて人口増となっています。しかし、つくばエクスプレスはつくばが終点で、そこからどこにも接続していないもの。ですから、県内のもう1つの路線である常磐

線沿線では、軒並み人口が減っています。つくばエクスプレス沿線の人口が増えている一方で、県北地域の人口は大きく減っている。つまり都市部と山間部とのギャップが激しいと言えます。

**大樹** そうした現状を打破するためには思い切った改革が必要でしょうが、茨城県では、1947年に公選の県知事となってから大井川知事まで4回しか知事が交代されていないと聞いています。それも、そうした保守的な県民性の表れなのかもしれませんね。

**大井川知事** はい、これまでの公選知事は3期から6期と長期にわたって務めてこられました。

**大樹** 私も以前、藤沢市長を務めていたので分かりますが、一度安定してしまつた風土を変えていくのは本当に大変ですね。

**大井川知事** 山間地域では過疎化が進んでいるにもかかわらず、大多数の人は、現状維持を選択しようとしています。既存の秩序の中の暮らしを、それはそれとして受容している、思い切ったことにチャレンジするエネルギーをあまり感じませんでした。私が選挙運動で「このままではダメだから、挑戦しよう！」と訴えて、初めて改革の必要性に気づいた方が多かつたようです。

**IT業界の視点から  
新しい感覚で改革を！**



疑問の目を向け、変革に向け、  
挑戦する意欲を県政に持ち込む。

は県政に活かされますね。

**大井川知事** そう思っています。これまでIT業界から見た行政の問題点、改革できそうな点を研究してきたつもりですので、そうした視点を持ち込みながら、茨城県職員の仕事の仕方も含め、県政の進め方をうまく変えていけるのではないかと思います。

**大樹** 直近のドワンゴでは、教育事業にも携わっておられたそうですね。

**大井川知事** はい。ニュースと教育を担当する役員を務めていたのですが、特に面白かったのは教育です。ドワンゴは2016年4月にインターネットを通じてすべて教える通信制高校、学校法人角川ドワンゴ学園「N高等学校」を開設しまして、この高校の設立に携われたことは、私にとって大変プラスになったと思っています。

**大樹** ITを利用した通信制高校ですね。

**大井川知事** そうです。先生の中には授業が得意な人もいるし、生徒のケアが得意な人もいます。そこで、実際に教科を教える先生にはスペシャリストを呼び、生徒指導等を行う先生は別に置くという、分業体制を敷いています。授業はインターネットを通じて一度に

多くの生徒に行えますし、双方向で質問を受けることもできます。一方で、教室には生徒指導したり、壁にぶつかった生徒を助けてあげられたりする先生がいます。

**大樹** 非常に面白い試みですね。

### 意欲ある人材を伸ばす教育 英語とプログラミング

**大樹** そうした取り組みは茨城県にも導入を目指されていますか。

**大井川知事** 茨城県の教育にもこうした要素を少し取り込みたいと思っています。おそろくいきなりすべては無理ですので、まずは学習指導要領の枠組みの外側で、本当に意欲のある人が自由選択で選べる課外授業などに取り入れていきたいと考えています。

これからの時代、英語とプログラミング、この2つが大変重要になってきますので、これを茨城県独自にそうした教育システムを導入できたらと思います。

**大樹** これからの時代、英語は必須ですからね。私たちの時代は、英語を習ってもなかなか英会話ができなかったりしますから、もっ

と実践的な教育を行うべきだと思います。

**大井川知事** ネイティブの先生をすべての英語の授業に配置するのは、学校の規模が大きくなればなるほど難しくなりますが、インターネットを通じて授業を行えば、その問題はクリアできる可能性もあります。

**大樹** プログラミング教育については、国でも2020年に小学校での必修化を検討しているようですね。

**大井川知事** しかし、小学校における現在の英語教育と同様、おそらくあまり実践的なことは教えられないでしょう。ですから茨城県では、それに先んじてもう少し踏み込んだ教育を独自に導入できたらと思っています。

**大樹** しかし、英語もプログラミングも、全員がある程度の素養を身につけるのは、なかなか難しいでしょうね。

**大井川知事** はい、それはもちろんです。目指すべきは、全員をスペシャリストにすることではなく、本当に興味を持っている人に教育の機会を与え、そして育てることです。

今まで日本の行政は、工業化社会に適応するため、すべての人の能力を底上げすることに注力してきました。しかし、これからは、

ほんのひと握りの能力のある人がそれぞれの分野を引っ張っていく時代になるでしょうから、そこでの才能をもっと伸ばすような仕掛けを少しでも教育現場に導入してみたいと思っています。

**大樹** みんな個性が違いますし、伸ばせる能力も違いますからね。

**大井川知事** みんながプロフェッショナルになる必要はないと思います。しかし、挑戦したくても、機会がなければその芽を出してあげることもできません。英語などは、実際海外に住んでみれば、いつしか慣れて話せるようになってきますよね。ですから、意欲のある人に実践的な教育の機会をつくってあげられるかどうか重要だと思います。

**大樹** 日本は、海外に比べてIT人材が不足していると思います。

**大井川知事** これからの時代は、あらゆるものにIoTやAIが関係してきます。ですから、IT人材のニーズは今後ますます高まってくるでしょう。そのニーズに対し、戦略的に1人でも2人でも才能を発掘して開花させることができればいいと思います。現状では、茨城県に海外から優秀な人材を呼んでこよう

と思ってもなかなか難しい。しかし、茨城県でそうした人材を育てれば、将来、茨城県で起業して、ビル・ゲイツのような人が生まれるかもしれません。

そうならば、これから人口減少社会を迎える日本で、茨城県に人材が流入し、産業が活性化する可能性もあると思いますね。

このままですと、若者を中心にみんな都心にどんどん流出してしまって、保育園でも工場でも人材がなかなか見つからないといった状況になるでしょう。そうした現状を打開するのは本当に難しいと思いますが、才能のある人材を1人でも2人でも育てていけば、やがては輝く企業、輝く農業などが茨城県で生まれるかもしれません。魅力があれば、自然と若者も茨城県に戻ってくる、あるいは居着くのではないのでしょうか。どうすればそれが実現できるか、これから模索していきたいと思っています。

## 海外展開にも恐れず チャレンジしていく

**大樹** 大井川知事は新たな政策の1つに「ビ

そして産業においても、海外展開に恐れることなく挑戦していける基盤づくりを目指していきたいと思っています。

## あらゆる知恵を集め リスクをとって改革を

**大樹** 就任から1カ月半、これから政策を進めていこうとされている段階ですね。

**大井川知事** やっと県庁のメンバーと新しい方向性について議論する時間も取れるようになってきました。様々な問題提起をさせてもらいながら、今、新しいことに取り組む方向性をつくろうとしているところです。

**大樹** 平成29年度予算は大体決まっていますから、大井川知事ご自身の色を出していくのは、平成30年度予算からになりますでしょうか。

**大井川知事** そうですね。ですから来年4月に向けて、ある程度大きな方向性は今のうちに固めなければなりませんから、その作業をこの1〜2カ月で急ピッチに進めていこうと考えています。

**大樹** 大井川知事は「ガラス張りの県政」を

ジット茨城「新観光創生」を掲げ、国際クルーズ船の誘致や茨城空港の国際線誘致促進を目指しておられます。先ほどの英語やIT教育と同様、これらは海外に目を向けた政策ですね。



それぞれの分野での才能をもっと伸ばすような政策を!

**大井川知事** 茨城県には空港も港もあります。しかし、これまで海外を意識した取り組みをしてきたかという点、決してそうではなく、意外と外に目が向いていませんでした。農業に関して、国内市場の拡大がこれ以上望め

ないからと外に市場を求めようという意欲を持っていない人は、ほんの一握りです。

あらゆる産業で可能性を外に求めていかなければ、今後マーケットがシユリンクしていく日本では、輝く未来は描けません。解がないことに取り組んでも仕方ありませんから、様々なことに挑戦し続けていきたいと思っています。

**大樹** 閉鎖的であってはいけないということですね。

**大井川知事** はい、そうです。これまで茨城県は、地元の中である程度事足りてきましたので、あえて外に求める必要もなかったのでしょう。しかし、このままだと今後おそろしく気づいたときにはもう手後れという状態になりますので、この10年に様々な投資を行い、自分たちも変わっていく努力をしなければならぬと思っています。

**大樹** やはりまずICTと教育への投資ででしょうか。

**大井川知事** それだけではありませんが、その2つが私の得意分野でもありますので、ICTや教育への新たな取り組みを強化して、まずは人材育成を行っていききたいと思っています。

理念に掲げられています。

**大井川知事** はい。県の行っている内容はインターネットなどを通じて見ることができるようになっています。県のPRの意味でも、世の中に向けてどんどん情報発信していくことが大事ですので、県の行っていることを「見える化」し、政策の形成過程からなるべく多くの人に参加していただきたいと考えています。

**大樹** たしかに役所内だけで物事を決定するには、限界がありますよね。

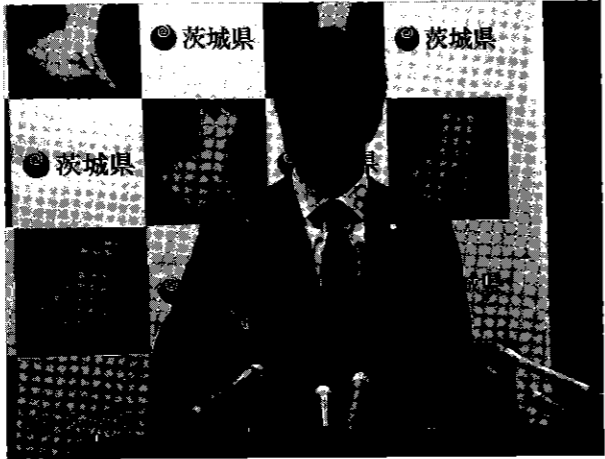
**大井川知事** はい。これからの時代、先行きはとても不透明で、前例のないことに挑戦しなければならぬ時代がやってきています。ですから、1人でも多くの人の知恵を取り込むために、みんなが声を出しやすい仕組みを制度的につくっていき、多くの県民を巻き込んだ政策づくりを行っていきたく考えています。

**大樹** 庁内でも、これまでは何か提案しても「前例がないから」と却下されてきたケースがあるかもしれません。大井川知事の下であれば何か新しいことができるかもしれないと感じておられる若い職員もいらっしゃるで

知事と県職員による政策課題別フリーディスカッション



知事就任記者会見に臨む



人が育ち、企業が生まれ、  
人が集まる茨城県に



しょうね。

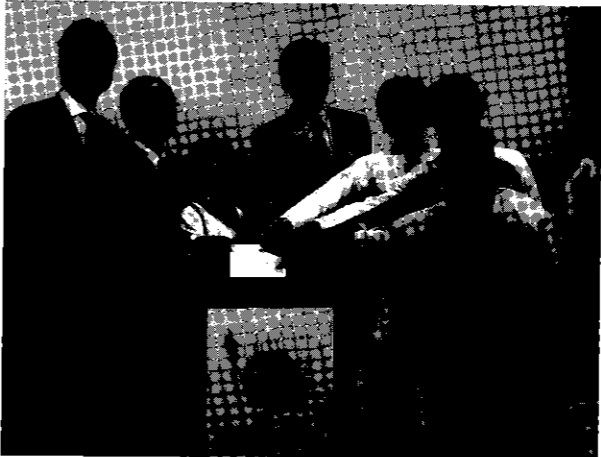
**大井川知事** 今までは、どちらかといえばなるべく波風を立てず、誰からも反対されないような政策を慎重に選ぶような風土だったと聞いています。私は大胆にリスクをとって方向性を示すタイプですので、そうした意味ではだいたい市内の雰囲気は変わっていくのではないかと思います。もちろん、あまり拙速に変えてしまうと失敗する可能性もありますので、そこはバランスを見ながら進めていこうと考えています。

**大樹** まずは、大井川ドクトリンを皆さんにも理解してもらわなければなりませんね。

**大井川知事** 今は私から問題提起し、方向性を示して皆さんに投げかけるといいう、どちらかといえば一方通行な議論になりがちなのですが、1年後には、どんどんボトムアップで「こんなことがしたい、あんなことがしたい」という提案が上がってくるような風土づくり、そうした意欲のある人を生み出していくこと、これが今の私の目標です。

**大樹** 新たにご就任されたばかりで、そうした意味ではしづらみもありませんから、変えていくには今がチャンスですね。

いぎき茨城ゆめ国体・いぎき茨城ゆめ大会カウントダウンボードの点灯



栗の生産者による知事表敬訪問



### 挑戦する茨城県をつくる！ 魅力的なまちづくりへ

**大樹** 大井川知事の誕生には、市内だけでなく、県民の皆さんも大変期待されているでしょうね。

**大井川知事** 24年ぶりに知事が交代したということ、茨城県内ではちょっとした事件になっているのですが…(笑)。しかし、期待値は大変上がっていると思いますので、それに応えるべく、しっかりと政策を進めていこうと考えています。

**大樹** これからやるのがたくさんありますね。

**大井川知事** 先ほども申し上げたように、茨城県は、ポテンシャルは非常に高い県だと思います。しかし、恵まれているはずの資産がこれまでは十分に活用されていませんでした。次の10年で思い切って挑戦していかなければ今後の茨城県の発展はないと思っていますので、「挑戦する茨城県をつくる」をキャッチフレーズに、今までやったことのないことにどんどん挑戦していきたいと考えています。

**大樹** 大井川知事は人脈もご経験もお持ちです。すから、それを県政に活かされれば、これから茨城県は大変魅力のある県になるかもしれませんね。

**大井川知事** 私の信条は3つあり、「あきらめない」「常識を疑う」「自ら変わる勇気を持つ」。これが私の生き方です。こうした思いが浸透していけば、観光、農業、ベンチャー育成、教育など、あらゆる分野で茨城県ももっと挑戦していけると思います。

茨城県が魅力を持てば、そこで人が育ち、優良企業が生まれ、外の人も惹きつけてこられる。そうした良い循環を、茨城県でぜひ実現したいと思っています。そのために発想の転換を行い、活力ある県政をしっかりと行っていきたいですね。

**大樹** 今後の茨城県の動きにぜひ注目していきたいと思います。本日はありがとうございました。

(2017年11月時点でのインタビュー)